

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理学方法論 1（リスクリテラシー）		
担当教員	福田 充 ,宮脇 健,山下 博之		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	木 1		
講義室	1210	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	基盤		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連（配分については打合せ時に要検討） DP1 [意欲・経験・適性] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（25%） DP2 [学識・専門技能] 災害，テロ，国際紛争等，複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための，法学，政治学，国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（50%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ，自らの明確な考えをもとに，他者とコミュニケーションを確立する能力（25%）		
教員の実務経験	福田充は、2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省や内閣官房では新型インフルエンザ等のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第5回）		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	危機管理の研究を行う上で、「危機」や「危機管理」に関わる事象とはそもそもどのようなものか、それらを捉えるためにいかなる理論やモデル，概念が用いられているのかを学ぶ必要があります。本講では，リスクマネジメント，リスクコミュニケーション，クライシスマネジメント，クライシスコミュニケーションに関わる研究をレビューしつつ，危機管理に関わる研究を支えてきた理論やモデル，概念等を学修します。これらの研究プロセスを通じて，意欲・経験・適性の資質を確認するとともに，学識・専門技能等の汎用的能力を開発することを目的とします。 オムニバス（全15回） （4 福田 充／5回） 「危機」に関わる事象及び「危機」に関わる事象の発生時に行われるクライシスマネジメントとクライシスコミュニケーションを捉えるための理論やモデル，概念等を教授します。 （13 宮脇 健／5回） 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル，概念等を教授します。 （14 山下 博之／5回）		

	「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクマネジメントを捉えるための理論やモデル、概念等を教授します。	
授業の趣旨	■副題：危機管理を専門的に学ぶための知を深遠化させる。 ■授業の目的：危機管理の研究を行うために必要なリスクに関する理論やモデルを先行研究を通して学び、その上で自身の研究分野における立ち位置を確立することを目的とする。 ■授業のポイント：、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、クライシスマネジメント、クライシスコミュニケーションに関わる先行研究のレビューをすることで、学説、研究者のスタンス、研究の方法などを理論やモデルを通して学修する。この学修プロセスを通じて、自らが危機管理に関するどのような研究の視座を持つのかを考え、理解し、その上で危機管理に関わる研究をする際の自らのスタンスをより専門的に説明できるようになる。	
総合到達目標	■危機管理学及び法学に関する問題を論理的・批判的に考究することができる。 ・危機事態に諸問題を認識し、課題を発見して認識することができる（第1回～15回）。 ・危機事態における諸問題を自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・危機管理に関する課題について事例やデータを体系的に収集することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関する課題について、批判的に分析することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する問題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・危機管理に関する事象や理論を適切に理解し、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関する課題に対して、解決策を構築するための論理的な思考を展開することができる（第1回～15回）。 ・危機管理に関する課題に関して、社会に政策提言するための口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。	
成績評価方法	■授業参加度(15回) 40% (評価の観点)出席、発言 (DP1, DP2) (フィードバックの方法)授業内でその都度講評する。 ■レポートまたは報告(最低3回)60% (DP4) (評価の観点)各担当者の授業における輪読用のレジメを作成、報告する。 (フィードバックの方法) 授業内でその都度講評する。	
履修条件	特になし。	
履修上の注意点	他大学、他学部からの入学者は、危機管理学部の「危機管理学概論（レジリエンス）」を履修することが望ましい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 「危機管理学」を研究するために必要な方法論にはどのようなものがあるか、「リスク」の概念を中心にその研究の手法を学ぶための本演習の全体像を説明する。「危機管理」における「クライシスコミュニケーション」と「クライシスマネジメント」、「リスクコミュニケーション」と「リスクマネジメント」の構造と関係性を考察し、その関係性や特徴が説明できるようになる。このガイダンスで危機管理学を研究するためのリテラシーを高める（DP-1、DP-2、DP-4）。本演習では担当教員の実務経験をもとに指導を行う。 ③予習（120分） 教科書の一冊、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.を読み、リスクの概念、リスクコミュニケーションの概念を理解する。 ④復習（120分） 教科書の、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.の中で指定された発表箇所の章のレジメを作成する。 【担当教員：福田 充】
	2	①授業テーマ クライシスコミュニケーションの理論とモデル① ②授業概要 「危機管理学」の中でも重要な理論であるリスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーションの関係性とその構造を概念的に理解する。そこから、危機事態におけるクライシスコミュニケーションのあり方、その問題点について、理論とモデルを考察するアプローチから危機管理学の研究方法を考え、説明できるようになる（DP-1、DP-

	2、DP-4)。 本演習では担当教員の実務経験をもとに指導を行う。 ③予習（120分） 教科書の一冊、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.を読み、リスクの概念、とくにクライシスコミュニケーションの概念を理解する。 ④復習（120分） 教科書の、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.の中で指定された発表箇所の章のレジュメを作成する。 【担当教員：福田 充】
3	①授業テーマ クライシスコミュニケーションの理論とモデル② ②授業概要 危機事態が発生した際中、またはその事後に必要なクライシスコミュニケーションの意義と機能について、具体的な危機を事例にして、どのようなアプローチで研究が可能であるか、クライシスコミュニケーションのリテラシーを高めるための研究方法について考察し、その研究方法を理解して説明できるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 本演習では担当教員の実務経験をもとに指導を行う。 ③予習（120分） 教科書の一冊、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.を読み、リスクの概念、とくにクライシスコミュニケーションの概念を理解する。 ④復習（120分） 教科書の、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.の中で指定された発表箇所の章のレジュメを作成する。 【担当教員：福田 充】
4	①授業テーマ クライシスコミュニケーションの理論とモデル③ ②授業概要 危機事態におけるクライシスコミュニケーションには、ハザードごとにどのような特徴や問題があるか、具体的なハザードを想定したクライシスコミュニケーションの技術やその効果について、社会心理学、コミュニケーション論、メディア論的なパースペクティブから考察し、説明できるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 本演習では担当教員の実務経験をもとに指導を行う。 ③予習（120分） 教科書の一冊、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.を読み、リスクの概念、とくにクライシスコミュニケーションの概念を理解する。 ④復習（120分） 教科書の、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.の中で指定された発表箇所の章のレジュメを作成する。 【担当教員：福田 充】
5	①授業テーマ クライシスコミュニケーションの理論とモデル④ ②授業概要 「危機管理学」におけるクライシスコミュニケーションにはどのような意義、機能があるか、実際の事例をもとに社会調査の観点から、どのように調査、検証が可能であるか、その実証研究、社会調査の方法論の可能性について考察する。自分自身のリスクに関する調査研究の研究計画を構築できるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 本演習では担当教員の実務経験をもとに指導を行う。 ③予習（120分） 教科書の一冊、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.を読み、リスクの概念、とくにクライシスコミュニケーションの概念を理解する。 ④復習（120分） 教科書の、Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge.の中で指定された発表箇所の章のレジュメを作成する。 【担当教員：福田 充】
6	①授業テーマ リスクコミュニケーションの理論とモデル① ②授業概要 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル、概念等について、先行研究を輪読をしながら理解することで、リスクに関する実際の事例に関してリスクコミュニケーションからの

	視点で説明が出来るようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Robert L. Heath & H. Dan O'Hair（2010） Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledgeのsection1の1の指定した箇所のレジюмеを作成する。 ④復習（120分） 授業中に輪読の中で議論した先行研究を確認し、リスクコミュニケーションの理論に関する理解を深める。適宜、輪読した内容に関連する研究論文（和書）を提示する。 【担当教員：山下 博之】
7	①授業テーマ リスクコミュニケーションの理論とモデル② ②授業概要 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル、概念等について、先行研究を輪読をしながら理解することで、リスクに関する実際の事例に関してリスクコミュニケーションからの視点で説明が出来るようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Robert L. Heath & H. Dan O'Hair（2010） Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledgeのsection1の1の指定した箇所のレジюмеを作成する。 ④復習（120分） 授業中に輪読の中で議論した先行研究を確認し、リスクコミュニケーションの理論に関する理解を深める。適宜、輪読した内容に関連する研究論文（和書）を提示する。 【担当教員：山下 博之】
8	①授業テーマ リスクコミュニケーションの理論とモデル③ ②授業概要 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル、概念等について、先行研究を輪読をしながら理解することで、リスクに関する実際の事例に関してリスクコミュニケーションからの視点で説明が出来るようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Robert L. Heath & H. Dan O'Hair（2010） Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledgeのsection1の1の指定した箇所のレジюмеを作成する。 ④復習（120分） 授業中に輪読の中で議論した先行研究を確認し、リスクコミュニケーションの理論に関する理解を深める。適宜、輪読した内容に関連する研究論文（和書）を提示する。 【担当教員：山下 博之】
9	①授業テーマ リスクコミュニケーションの理論とモデル④ ②授業概要 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル、概念等について、先行研究を輪読をしながら理解することで、リスクに関する実際の事例に関してリスクコミュニケーションからの視点で説明が出来るようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Robert L. Heath & H. Dan O'Hair（2010） Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledgeのsection1の1の指定した箇所のレジюмеを作成する。 ④復習（120分） 授業中に輪読の中で議論した先行研究を確認し、リスクコミュニケーションの理論に関する理解を深める。適宜、輪読した内容に関連する研究論文（和書）を提示する。 【担当教員：山下 博之】
10	①授業テーマ リスクコミュニケーションの理論とモデル⑤ ②授業概要 「危機」に関わる事象がリスクとして存在している平常時に行われるリスクコミュニケーションを捉えるための理論やモデル、概念等について輪読をしながら理解することで、リスクに関する実際の事例に関してリスクコミュニケーションからの視点で説明が出来るようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Robert L. Heath & H. Dan O'Hair（2010） Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledgeのsection1の1の指定した箇所のレジюмеを作成する。 ④復習（120分） 授業中に輪読の中で議論した先行研究を確認し、リスクコミュニケーションの理論に

	関する理解を深める。適宜、輪読した内容に関連する研究論文（和書）を提示する。 【担当教員：山下 博之】
11	①授業テーマ リスクマネジメントの理論とモデル① ②授業概要 ・テキストの輪読を通じて、社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方、研究上のアプローチの仕方の多様性を確認し、共通点や類似点、差異を検討する。 ・社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方の多様性を俯瞰し、自らの研究テーマや研究アプローチの位置付けを説明することができるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Terje Aven & Ortwin Renn（2010）Risk Managemnet amd Governance, Springerの4の指定した箇所のレジュメを作成する。 ④復習（120分） 授業での議論を踏まえもう一度テキストの該当箇所を読み直し、レジュメを修正し、自らの考えや疑問点をノートに整理する。 【担当教員：宮脇 健】
12	①授業テーマ リスクマネジメントの理論とモデル①② ②授業概要 ・テキストの輪読を通じて、社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方、研究上のアプローチの仕方の多様性を確認し、共通点や類似点、差異を検討する。 ・社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方の多様性を俯瞰し、自らの研究テーマや研究アプローチの位置付けを説明することができるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Terje Aven & Ortwin Renn（2010）Risk Managemnet amd Governance, Springerの4の指定した箇所のレジュメを作成する。 ④復習（120分） 授業での議論を踏まえもう一度テキストの該当箇所を読み直し、レジュメを修正し、自らの考えや疑問点をノートに整理する。 【担当教員：宮脇 健】
13	①授業テーマ リスクマネジメントの理論とモデル③ ②授業概要 ・テキストの輪読を通じて、社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方、研究上のアプローチの仕方の多様性を確認し、共通点や類似点、差異を検討する。 ・社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方の多様性を俯瞰し、自らの研究テーマや研究アプローチの位置付けを説明することができるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Terje Aven & Ortwin Renn（2010）Risk Managemnet amd Governance, Springerの4の指定した箇所のレジュメを作成する。 ④復習（120分） 授業での議論を踏まえもう一度テキストの該当箇所を読み直し、レジュメを修正し、自らの考えや疑問点をノートに整理する。 【担当教員：宮脇 健】
14	①授業テーマ リスクマネジメントの理論とモデル④ ②授業概要 ・テキストの輪読を通じて、社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方、研究上のアプローチの仕方の多様性を確認し、共通点や類似点、差異を検討する。 ・社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方の多様性を俯瞰し、自らの研究テーマや研究アプローチの位置付けを説明することができるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Terje Aven & Ortwin Renn（2010）Risk Managemnet amd Governance, Springerの4の指定した箇所のレジュメを作成する。 ④復習（120分）

	授業での議論を踏まえもう一度テキストの該当箇所を読み直し、レジメを修正し、自らの考えや疑問点をノートに整理する。 【担当教員：宮脇 健】
15	①授業テーマ リスクマネジメントの理論とモデル⑤ ②授業概要 ・テキストの輪読を通じて、社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方、研究上のアプローチの仕方の多様性を確認し、共通点や類似点、差異を検討する。 ・社会の諸領域及び学問の諸領域における「リスク」や「リスクマネジメント」の捉え方の多様性を俯瞰し、自らの研究テーマや研究アプローチの位置付けを説明することができるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） Terje Aven & Ortwin Renn（2010）Risk Managemnet amd Governance, Springerの8の指定した箇所のレジメを作成する。 ④復習（120分） 授業での議論を踏まえもう一度テキストの該当箇所を読み直し、レジメを修正し、自らの考えや疑問点をノートに整理する。 【担当教員：宮脇 健】
関連科目	危機管理学研究演習Ⅰ、危機管理学研究演習Ⅱなど。
教科書	Joseph Arval & Louie Rivers III (eds.) (2014) Effective Risk Communication, Routledge. Robert L. Heath & H. Dan O'Hair (2010) Handbook of Risk and Crisis Communication, Routledge. Terje Aven & Ortwin Renn (2010) Risk Managemnet amd Governance, Springer.
参考書・参考URL	講義中、適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	各担当教員がそれぞれの1回目の講義でお知らせします。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%; パブリックセキュリティ25%; グローバルセキュリティ25%; 情報セキュリティ25% ■危機管理と法学のバランス 危機管理90%; 法学10%

